

核のゴミと福井の未来を考えよう!

使用済み核燃料(高レベル放射性廃棄物)

「敷地内乾式貯蔵」問題



— 万年先、いや千年先、いや50年先の

子孫のなげきを想いつつ、冷静にそして誠実に議論しよう —

八方ふさがりの「核のゴミ政策」、 「展望はなく場当たりの」

54年前、次のような警鐘が鳴らされていました。

原子炉の耐用年数は平均十五年
―二十年といわれる。耐用年数の
過ぎた原子炉はもちろん、運転休
止にするが、取りこわすには放射
能が飛び散るので、そのままの状
態にしておくというのが学界や電
力会社の方針。なに分、世界でた
れも知らない未知のことだらけに
「福井県の美しい海岸線は原電の
墓場がずらりと並ぶのでは……」
といった不安が出るのも当然。県
臨海開発課にも、将来の展望はな
く場当たりので「どうにかなるだ
ろう」とたよりない状態。
原子炉から出る廃棄物の処理も
どうするかの見当もついていな
い。科学技術庁は、東海村実験炉

原電 疑問だらけ 読売新聞（県版）1971年6月30日

「福井の美しい海岸線は原電の墓場がずらりと並ぶのでは…」

「将来の展望はなく場当たりの」

「原子炉から出る廃棄物の処理も、どうするかの見当もついていない」

たまり続ける 使用済み核燃料（高レベル放射性廃棄物）

まず事実を見つめよう！



なぜ、関西電力は、使用済み核燃料を原発敷地内で「乾式貯蔵」しただっているの？

関電が「敷地内乾式貯蔵」を急ぐ理由は、



使用済み核燃料を保管する原発プールが3年後（2028年）には満杯になる。そうすると燃料交換ができず、原発の運転もできなくなるからよ。



でも、関電は、「青森県六ヶ所村の再処理工場が2026年に稼働し、その後は使用済み核燃料を青森へ移送する」から「原発敷地内での乾式貯蔵はあくまでも一時的」と言っているわ。

県も「2026年に再処理を必ず操業させると国が言っているので、若狭からの搬出計画も滞りなく進むと思う」と他人ごとのように構えているわね。



でも、国が言うのだったら安心ね。「若狭が核のゴミの墓場になる」と大げさに騒ぐ人たちもいるけど、心配しすぎじゃないの？

ただ、若狭からの搬出計画は、あくまでも



再処理工場や中間貯蔵施設の稼働を前提とした、仮定に仮定を重ねた話にすぎないのよ。



でも、国や国策企業が動かすと言っているんだから、私たち国民は信用するしかないんじゃない？ なぜ「仮定」だと言い切れるの？

なぜなら、再処理工場は、1993年に着工し1997年に完成するはずだった。それが27回（年）も延期を繰り返し、32年経った今も完成していないのよ。



えっ、知らなかったわ。普通の企業ならとっくに中止・撤退しているところよね。これまでにどれくらいのお金がつき込まれてきたの？

1979年の構想では、建設費と40年間の



操業費を含む総事業費

を11兆円と見込んでいたけど、2025年には、22兆円を超え、工場が動き出せばコストはさらに増大する見込みよ。これらのコストはすべて国民負担よ。



ところで、「再処理工場」というのは、使用済み核燃料を無

害化する工場のことなの？

かつて、みちのく銀行の頭取が「青森県はリスキーな施設を押し付けられた」と憤慨していたけど…。

使用済み核燃料の再

処理で、原爆材料プル

トニウムと高レベル放

射性廃液（ガラス固化体にする）が



生み出されるのよ。厄介なゴミに置き変わるだけね。

受け入れ先のない ガラス固化体

青森県は30年前、英仏から返還のガラス固化体2140本を30～50年の暫定保管で受け入れた。

国は「青森県内を最終処分地にしない」と約束したが、30年後の今も行き先はない。

一時のお金目当てに北海道の寿都町と神恵内村が文獻調査を受け入れたが、北海道には核のゴミを持ち込ませぬ道条例があり、道知事は概要調査へ進むことにも反対している。

長崎県対馬市では、昨年3月、市を二分する選挙の結果、ガラス固化体の受け入れ（概要調査）を拒否した市長（自民党）が三選されている。

国は、使用済み核燃料を再処理し、まだ使えるウランとプルトニウムを取り出し、原発で繰り返し使う「核燃料サイクル」を進めようとしているんだけど、このガラス固化体の最終処分場がいまだに見つからないことも大きな足かせになるわ。

だって、仮に再処理工場をフル稼働させると、行き先のないガラス固化体が、年に約1千本もできてしまっのよ。



30年前に英仏から返還されたガラス固化体を受け入れる自治体が見つからないのに、

新たに1千本も生み出してしまっている。国の未来を危うくする大問題ね。いったい政治家は何をしているのかしら。



再処理工場の操業率は10%程度！ 若狭の使用済み核燃料の県外搬出はできない！



廃止措置になった東海村の再処理工場では、故障続きで高レベル放射性廃液のガラス固化がうまくできず、廃液を入れたステンレス貯槽の老朽化が進んでいるそうね…。

高レベル廃液は崩壊熱を持ち、腐食性があるのよ。



東海村にはその「高レベル廃液」が336^mも貯蔵されているのよ。これは広島原爆数万発分の放射能が含まれ、セル内に入ったら数十秒で死亡してしまうわ。

六ヶ所再処理工場にも、2006年から3年間の試験運転で発生した廃液が211^m残っているのよ。



再処理の第一の目的はプルトニウムを取り出すことなんですよ。平和国家をめざす被爆国の日本が原爆材料を持つのはまずいんじゃないの？

すでに日本は、その原爆材料プルトニウムを44・4^{kg}（2024年末）も持っているのよ。



だから、国の原子力委員会は「余剰プルトニウムを持たない」国際公約を実現するため「プルサーマルの着実な実施に必要な量だけ再処理が実施されるよう認可する」方針なのよ。（我が国におけるプルトニウム利用に関する基本的な考え方 2018・7・31）



でも、4年前の自民党総裁選で岸田さんは「核燃サイクル（プルトニウムリサイクル）を止めると、プルトニウムが増える」「核燃サイクルによって除去される高レベル核廃棄物がそのままになる」「だから（再処理も）やめられない」と演説していたわ。あれって、論理が逆さまなのね。この国の政治家の頭の中はいったいどうなっているんだか。

総理候補ともあろう

人が核燃サイクル（プルトニウムリサイクル）

の破綻に気づいていないんだから、まさに「亡国」の極みだよな。



ともあれ「余剰ブルトニウムを持たない」という国際公約に制約



されているため、プルサーマルでブルトニウムを燃やせた分だけしか再処理して取り出せないのよ。



再処理工場をフル操業すると、年約6・6トのブルトニウムが回収されるそうね。



でも、これまでに4基の原発で燃やせたブルトニウムは15

年間に5・73ト、年平均0・382トにすぎないのよ。

今後、この4基で定期点検以外に長期停止せず燃やせたとしても年平均0・692トだけ。

つまり、この量は再処理工場

を1年操業すると生じるブルトニウムの10%程度なのよ。



なるほど、たとえば再処理工場を操業できても、操業率を年10%程度に制限せざるを得ないということね。

操業率10%では、今後40年間（再処理工場の寿命）で、現在、六ヶ所村のプー



ルにある使用済み核燃料を再処理するのがやっとよ。つまり、若狭の原発プールにある使用済み核燃料を搬出することなどできないのよ。



このことを県議や知事さんたちは知っているのかしら？

私たちは、県の原子力安全対策課との交渉で、操業率10%の問題



を議論したけど、原安課の技術職員は反論すらしなかったわ。県議会への陳情書にもその問題は何度も書いているわよ。



県議会で県は、「電気事業連合会は、20

30年までに12基の原発でプルサーマルを進める方針」だと、電力会社の仮定の方針に盲従するかのような答弁をしているわね。12基の原発でプルサーマルを進めることなんて、現状では極めて難しいのに……。



使用済みMOX燃料を処理する第二再処理工場は その計画地すら決まっていない！



原発でウランとプルト
ニウム混合のMOX燃料
を燃やすプルサーマル運転は、当
初の目標は2010年までに全国の
16〜18基で実施する計画だったけど、
現在、4基でほぼそとと実施できて
いるだけなのよね。

仏MOX燃料加工

工場の品質劣化で生産

量が激減して、MOX

燃料の製造が追いつかない事情もあるけど、

そもそも電力会社は燃料コ

ストが10倍になり、炉も不安定にさ

せるプルサーマルなど本音ではやり

たくないのよ。高浜原発でも認可さ

れた量を目いっぱい使っていない

のよ。



プルサーマル運転後
の使用済みMOX燃料
の行き先はあるのかしら。

**初めから行き先のない
使用済みMOX燃料！**

発熱量の高い使用済

みMOX燃料は、原発

プールで百年近く冷や

さなければならぬのよ。

使用済みMOX燃料には長寿命

の核種が多く含まれ、これを再処理

する施設もないから、高浜で永く貯

蔵せざるを得なくなったわよね。



請する際、関電は「使用済みMO

1998年にプルサー
マル運転の許可を国に申

X燃料の搬出先は、国が再処理方法
などの方針を2010年までに決める」
と約束していたわよ。

その第二再処理工場
は、いつどこにできる
かの青写真すらいまだ

にないのよ。使用済みMOX燃料
を再処理する第二再処理工場の建設・
稼働など夢のまた夢、おとぎ話にす
ぎないわね。

高浜原発の老朽プールから放射能
を含む冷却水が漏れ出る心配。地震
などで冷却水が抜ければ、崩壊熱で
セシウムやヨウ素などの揮発性核種
が大量に放出されるわ。今後、周辺
の住民はその危険と隣り合わせで暮
らさなければならなくなったのよ。





使用済み核燃料を青
森へ搬出する ↓ 再処理

工場を稼働する ↓ もんじゅがこけ
たのでプルサーマル運転をする ↓
しかし操業率10% ↓ 使用済み核燃
料は若狭に留まる ↓ ↓ 使用済みM
OX燃料は再処理できず地元での
永久保管確実。因果応報という言葉
があるけど、政治家は政策の誤りに
気づいたら一刻も早く是正すべきね。



1997年12月県議会でのプルサーマルをめぐる論議

関孝治県議『地域振興策が示されなければ反対すべき』

栗田知事『正直言って地域振興を考える段階にはない』

山本文雄県議『原発を新幹線の駆け引き材料に、総理に直訴する考えはないか』

栗田知事『**新幹線のために、原発問題を進めるのは問題**』

当時、三重県議会は原発立地を凍結する決議をしています。原発を地域振興との取引材料に使おうと、それを露骨に口にする県議がいるのには絶句するしかありません。この時点で栗田知事は、プルサーマル計画については議論の積み重ねが必要で、急ぐ考えはない。使用済み燃料対策を優先させる。**国の日程に合わせるつもりはない、と慎重な姿勢を崩しませんでした。**



結局のところ、若狭の
原発サイト内にある使用
済み核燃料四千数百ソの

大半は再処理できないまま「核のゴミ（高レベル廃棄物）」になる運命
ということね。でも、関電は、県外
での中間貯蔵施設を2030年ごろ
に操業開始すると県に約束している
わよ。

上関町の「中間貯蔵
施設誘致計画」のこと



ね。だけど、再処理の行き詰まりが
誰の眼にも見えてきた今、上関での
「永久貯蔵」も見えてきて、世論は
受入れ拒否に傾いてるわ。

周辺の田布施町議会も3月21日に
反対決議し、山口県知事も「負担と
して非常に過大」だとしていて、同
意は難しいと思うわ。

『プール貯蔵より乾式貯蔵の方が安全』は、ダマシの手口！



原発敷地内での乾式貯

蔵の安全性について、福

井県の原子力安全専門委は、安全と評価しているわ。

熔融事故を起こす危

険はほとんどないわ。



でも、高い放射線は出続けているのよ。乾式容器は、プールのようには放射線を遮蔽できず、キャスクの近くでは1時間で公衆の被ばく線量限度1ミリシーベルト/年を超えてしまうわ。原子力規制委員会でも40年後には漏洩のためキャスクを移動できなくなること心配していたほどよ。



県議の中にも、プー

ル貯蔵より乾式貯蔵の

方が安全と信じている議員が多いわよ。

原子力規制委員会の更田前委員長は2020年に、むつ市の「中間貯蔵施設」について「恐れるのは、使用済み核燃料を運び出す先がない状態で、燃料容器の耐用年数（50～60年）に近づく事態だ」と貯蔵長期化の懸念を示した。この懸念のように、乾式キャスクの耐用年数（設計貯蔵期間）は40～60年で、数十年後には、金属ガスケットなどのシール部やレジンなどの中性子遮蔽材が劣化し、人が近づくとも被ばくする事態となり、その後の移動も保管作業も困難になるのだ。

中間貯蔵によりプール水喪失事故の危険が高どまり！



多くの人が誤解して
いることだけど、プー

ルで10年も冷却すれば、冷却水喪失による使用済み核燃料の熔融事故の危険はほとんどなくなるわ。そのままプールに入れておけばいいことよ。

関電は「乾式貯蔵の方が安全」なんて言うけど、それはダマシの手口。

プール水の喪失による燃料熔融事故を心配する人は、原発が運転を続け、13カ月ごとに燃料が交換され、プールにたえずホットな使用済み核燃料が入っている状況をこそ心配すべきなのよ。



米国の原発では、70年
代から乾式貯蔵を進めて
きたそうね。

米国の乾式容器は 長期保管専用で内陸貯蔵用

米国は、70年代にジミー・カー
ター大統領が、プル
トニウム増殖利用の路
線を放棄したのよ。



高速増殖炉も再処理工場もやめ、
軽水炉の使用済み核燃料は、当面、
原発敷地内で保管することになった。
ほとんどの原発は内陸にあり、潮
風で劣化することもないから、分厚
いコンクリート遮蔽の容器が使われ
ているわ。

それに比べ日本の乾式容器は貯蔵・
輸送兼用で小型軽量薄型。放射線の

遮蔽力が弱いので、遮蔽用の建屋や
設備があるし、遮蔽体のレジン（エ
ポキシ樹脂）は、中性子線照射によっ
て消耗し、50年先には「金属ガス
ケットの健全性の問題が生ずる」
「燃料棒の内圧により被覆管が破損
する可能性」があるのよ。

関電の担当者も「容器の設計上、
60年以上は置けない」と高浜町議会
で回答しているわ。（2024年
3月14日 朝日新聞）



福井の政治家たちは、
原発の問題で、いつも
「地域振興」との取引を習わしにし
てきたけど、千年先、万年先まで放
射能ゴミの影響を受ける子孫たちへ
どう言い訳するつもりかしら？

ところで関電は2013年から、

使用済み核燃料の中間貯蔵施設の受
け入れ要請を210の自治体に行い、
すべて断られたそうね。

高浜原発に隣接する
京都府宮津市は、ふる
さとを守る条例の理念
にそぐわぬものとして中間貯蔵施設
の受け入れを拒否したのよ。

当時の宮津市は、深刻な財政難に
あり、2019年度の（将来負担比
率）は、夕張市に次ぐ全国ワースト
2位だったのよ。でも、中間貯蔵
受け入れにともなう電源三法交付金
などの金銭的誘惑にも惑
わされず、毅然として使
用済み核燃料の中間貯蔵
を拒否したのよ。



西川前知事『中間貯蔵は管理、監視が中心の仕事。雇用効果はない』

西川前知事は2011

5年、後援会長である



川田達男福井商工会々頭の「(敷地内)貯蔵を貯蔵ビジネスと意識転換すべし」の意見にも「**中間貯蔵は管理、監視が中心の仕事。雇用効果はない**」と、それをねつけたのよ。



杉本知事が敷地内貯蔵を認めれば、それは、「若狭を核のゴミの墓場にしない」という栗田(元)知事以来の県方針の大転換で、県民の願いにもそむくことになるわね。

とくに一時の金(地域振興)をあてにして、未来世代の危険に思いをめぐらせない政治は、時代錯誤よね。

チエルノブイリ事

故の前年の1985年

の県議会で山本順一

県議(自民党)は、「知事は15

基もの原発を受け入れたが、住民の所得増大には結びつかなかった。」と追及。中川知事は、

「期待したようにはいかなかった」と脱帽しているわ。

「期待したようにはいかなかった」と脱帽しているわ。



知事、誤り認める

美浜町は1990年に原発は

「恒久的・総合的・広域的振興

には結びついていない」と報告。

福井県も1994年に「原発15基

を誘致したが、恒久的福祉の実

現にはほど遠い」「一時的な財政

面の恩恵より、新たな恒久的な地域

活性化のあり方が求められている」

と総括しているのよ。

さらに2010年にも福井県

立大学経済研究所が「関電の利

益は大部分が県外に流出し、原

発の県経済に対する直接的なメ

リットは、見かけの大きさほど

は大きくない」と報告している

わ。



人口減少は全国共通

の問題だけど、とくに原発のある町

での若年層の減少が深刻なようね。

原発のあるおおい町が、町内13団体からアンケート調査を行なったところ、「産業の育成や企業誘致による雇用の創出」「新規就業者の受け入れ等による産業振興」など、仕事につながる産業や雇用の創出に力を注ぐべきと考える割合が高かったそうよ。（おおい町人口ビジョン改訂版 令和2年3月）

興味深いデータがあるわ。1965年から2020年の55年間の、県内町村全体の人口のピークは1999年よ。



しかし、美浜町、おおい町、高浜町は、年平均20億円前後の電源三法交付金が交付され、原発関連税収が予算に占める割合も莫大であったにもかかわらず、原発を持たぬ町村より5〜13年も早くから人口減少が進

んでいるのよ。

55年間の減少率（最大人口÷最少人口）は町村平均の13%に対し、美浜町31%、おおい町24%、高浜町18%と突出しているわ。お金がたくさんあるからといって、町が「豊か」になったとは言いい切れないのよ。



潤沢な財政でなぜ？

その答えはこれまでいくつも指摘されてきているけど、例えば次の新聞記事の見出し「原発交付金が自立を阻害」は象徴的ね。



（1998年・朝日県版）

「原発交付金が自立阻害」

豊かな町で若者流出

市民出前講座 少人数で講師派遣します



核のゴミと福井の未来を考えよう！

プロジェクターを使ったわかりやすいお話です

参考図書：長沢啓行講演録「再稼働の前に考えよう使用済み核燃料」¥500

「なぜ、原発で若狭の振興は失敗したのか」白馬社 山崎隆敏 ¥935

再処理工場による放射能汚染の現実

私たちは若狭・福井
だけが核汚染から免れ



ればよいなどとは考えていないわ。

青森で再処理工場が稼働することになったときの、彼の地を襲う核汚染をととても心配しているわ。

再処理工場は、原発とは比べものにならない大量の放射能を海と空に日常的に放出するのよ。英仏ではこれまで日本の使用済み核燃料を再処理していたのよ。

仏国の再処理工場での汚染

仏のラ・アーク再処理工場周辺では、トリチウムが一般環境の700倍、セシウム137が約150倍と、極めて高レベルで検出され、一般環

境では検出されないコバルト60などの放射性物質も検出されているわ。

保健所や開業医らが、工場の35

圈内（人口約90万人）の25歳未満の住民を対象に白血病調査を実施。10

キ以内では、国内平均で予想される発症数1・4人に対し、2・8倍の4人だったと報告されているわ。

（毎日新聞1996年8月4日）



英国の再処理工場でも

英国セラフィールズ再処理工場の

近くの村では、25年間に11人の子供が、白血病、骨髄ガンで死亡しているとの医師の証言もあるのよ。

（毎日新聞1984年7月23日）

六ヶ所再処理工場でも

六ヶ所再処理工場でも、2006年からの試験運転で、ヨウ素129その他の核種を海と空に放出しているのよ。福井新聞（2006年4月13日）は、試運転でプルトニウムなどの放射性物質が漏れたことを伝えているわ。





原発は「クリーン」エネルギーと宣伝されるけど、百万Kwの原発で年に広島型原発千発分の死の灰が生まれるそうですね。

使用済み核燃料には、

半減期が二万四千年



(自然消滅までに二十四万年)の、自然界には存在しない超猛毒のプルトニウムも含まれているわ。プルトニウム8kgで長崎型原発を一個つくれるのよ。それを日本は、約45tも保有しているのよ。



プルトニウムは1gで

日本人全体の許容量になると聞いたわ。たった1gで四百万人を肺ガンにするともいわれる超猛毒物質なのよね。

1ミクロンのプルト

ニウム微粒子(タバコ

の煙り一粒大)が肺の

中に入れば、そのアルファ線によっ

て、確実に気管支ガンや肺ガンが引

き起こされるわ。



「余分なプルトニウムは持たない」という

国際的な約束があるのに、なんで再処理をやめないのかしら。

21年前に、核燃中止

を訴える「良質な怪文

書」が霞が関界隈に出回ったこと知っ

てる？



経産省の数人の若手官僚が関わったものらしいけど、核燃(プルトニウムリサイクル)をやめられない理由を次のように書いているわ。



① 行政の無謬性へのこだわり

「今まで核燃サイクルを推進してきたことが時代遅れとなったという政策の誤りを認められない」(今更やめるといえば、使用済み燃料が持ち出せなくなり原発が止まる)

② 国と電力業界の原子力利権を巡る政界、官界、業界、自治体のたかりの構図

③ 既得権への固執

そして、政策的意義を失った19兆円(果ては50兆円)もお金が国民の負担に転嫁されようとしている…。

(2004年5月 週刊朝日)

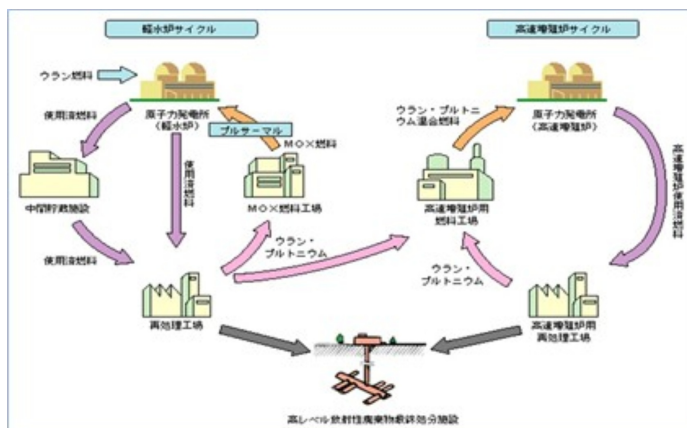
歴代知事は、「敷地内貯蔵」を 認めませんでした！！

栗田(元)知事も西川(前)知事も、使用済み核燃料の敷地内の貯蔵を認めませんでした。それは、「核燃料サイクル」が破綻した現状で敷地内貯蔵を認めれば、若狭が核のゴミ捨て場になると理解されていたからでしょう。

原発敷地内貯蔵の容認は、県原子力行政の大転換となり、若狭を核のゴミの墓場にしないという県民多数の願いにもそむくことになります。

「核燃料サイクル」の破綻 — 将棋ならすでに「詰んだ」状態

「軽水炉サイクル」と「高速増殖炉サイクル」の両輪がつながらぬものを「核燃料サイクル(プルトニウムリサイクル)」とは呼べません。





責任編集:核のゴミと福井の未来を考える会

監修:大阪府立大学名誉教授 長沢啓行（若狭ネット資料室長）

協力:サヨナラ原発福井ネットワーク

連絡先:福井県越前市 山崎方 Tel: 090-6271-8771